

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果(平成24年度)の概要

2. 分野等別状況 (1)国際戦略総合特区(6/7)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの 平均値に IIIを加味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
関西イノベーション国際戦略総合特区(大阪府等)	正	B 3.8	C 3.2 進捗度 ・世界における輸入医薬品市場シェアの拡大 84% ・関西のリチウムイオン電池の生産額 52% 等	B 4.3 規制の特例等 ・医薬品等に関する輸入手続きの電子化 実証実験事業等 財政支援等 ・投資促進税制支援 8件 等 地域独自の取組 ・「大阪バイオファンド」によるベンチャー支援 等	±0.00	<p>・ライフ分野に比べ、グリーン分野の取組がやや成果面で後れを取っている(※1)。</p> <p>・ライフ分野とグリーン分野の連携の構造が見えない。多くの活動が推進されている点は評価されるが、全体を統括する仕組み(※2)が十分に説明されていない。</p> <p>・一般的な研究は進んでいるが、実用化の段階で今のところ停滞している印象を受けた。また、目標達成度の考え方等(※3)に再検討の余地がある。</p> <p>※1: <ライフ分野> 世界における輸入医薬品市場シェアの拡大(H24目標)1.36%、(実績)1.14%、進捗度84% 等 <グリーン分野> 関西のリチウムイオン電池の生産額(H24目標)3,320億円、(実績)1,726億円、進捗度52% 等</p> <p>※2: 当該特区では、先端的なシーズや研究成果をいち早く実用化し、市場化に結びつけるイノベーションを次々に生み出す世界レベルの仕組み「イノベーションプラットフォーム【企業や地域単独では解決できない政策課題について、府県域を越えて資源を集中化して取り組むことで、次々にイノベーションを創出することにより実用化・市場化を図っていく仕組み】」を構築することを予定。ライフ分野とグリーン分野でそれぞれプラットフォームを構築し、成果品については、関西国際空港や阪神港などの物流インフラをライフ、グリーン共通で活用し、国内外の市場に流通させることとしている。</p> <p>※3: 4つの評価指標(①世界における輸入医薬品市場シェアの拡大、②世界における輸入医療機器市場シェアの拡大、③関西のリチウムイオン電池の生産額、④関西の太陽電池の生産額)全てについて、平成24年の実績値が基準年(平成22年)の実績値を下回っているが、進捗度を目標値に対する比率で算出している。また、基準年から低下した原因が十分に解明されていない。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。 *2)「III」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。